

魅せる群馬の文化発信プラン-第2次群馬県文化振興指針-2018年度~2022年度 評価シート一覧 令和3(2021)年度分

プロジェクト	項目	事業	事業の目標	所属	成果(結果)を示す目標・指標					2021 決算額 (千円)	2021事業結果	担当課 来年度事業評価	部会 評価	意見						
					項目	単位	2021 目標 (A)	2021 実績 (B)	目標値 達成率 (B/A)						担当課評価 理由					
01 群馬の特色ある文化の活用と発信																				
(1)群馬交響楽団の活用と発信																				
1	群馬交響楽団支援		地域に根ざした楽団として、子どもたちをはじめ県民にオーケストラ演奏の素晴らしさや感動を伝え、豊かな心を涵養するとともに、日本を代表する楽団として、県内外での演奏会や情報発信を通じて、本県のイメージアップを図る。	文化振興課	①	定期演奏会平均入場者数	人	1,640	1,315	80.18%	C	成果が認められる	292,034	・感染防止対策に留意しつつ定期演奏会を年間10回開催し、13,151人の鑑賞者があった。 ・移動・高校音教を54回開催し、90校が鑑賞した。 (当初計画では移動・高校音教は合計101回の開催予定であった。) ・東京公演を2回開催し、1,161人の鑑賞者があった。	5 継続 (見直しあり)	『群響改革プラン』を発表し、楽団のレベルアップ、継続的・安定的な運営のための施策を進めてゆくこととなった。改革プランに掲げた施策の実施状況を鑑みながら、適切な支援を行う。	C	□群馬交響楽団について ・コロナ禍において、楽団の魅力を県民に発信するには、デジタル配信も重要である。 □上毛かるたについて ・かるたの意義にふれることなく群馬を揶揄する道具として利用しているテレビ番組が見受けられる。県民にも、かるたの意義がきちんと伝わっていない。 また、小中学生など子供を対象とする事業は、今後大事にしていけるべき。		
					②	移動音楽教室及び高校音楽教室の鑑賞校数	校	設定なし	90	-	C	成果が認められる							コロナ禍にあつて可能な限り移動・高校音教を開催することができた。	
					③	東京公演の鑑賞者数	人	2,150	1,161	54.00%	C	成果が認められる							前年度比1回あたり100名弱程度観客を増やすことができた。	
2	群馬県戦略的文化芸術創造事業		群馬交響楽団、世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」及び県内に所在する文化施設等は、それ自身が単体で十分な歴史的・文化的価値をもつものであるが、これら多様な文化資産を組み合わせることで、これまでにない新たな魅力を創造・発信し、交流人口の増加につながることも、郷土に対する県民の愛着及び誇りの醸成を図る。	文化振興課	①	参加者数	人	80,000	0	-	D	成果があまり認められない	0	コロナ禍の影響により、全ての事業が開催中止となった	1	終了	今事業は本年度が最終年度となる。	C	□「すき焼きアクション」について ・なぜ群馬県ですき焼きなのか、県民にはその理由が浸透していない。すき焼きを構成する食材を通じて群馬にどんな農産物があるか理解を深める取り組みが必要。 □「温泉文化」について ・湯治文化や温泉でのお祭りは大切だと思いが、温泉文化に親しめる環境が、県内にどの程度あるか。 ・県民が温泉文化の意味を理解することが、盛り上がりにつながる。	
					②	参加者数(外国人)	人	3,900	0	-	D	成果があまり認められない								事業中止のため
					③	経済波及効果	千円	727,000	0	-	D	成果があまり認められない								事業中止のため
(2)「上毛かるた」の活用と発信																				
3	上毛かるた活用事業		上毛かるたを通じて、歴史と先人たちの思いを子どもたちをはじめ広く県民に知ってもらい、その活用を図ることにより、郷土への愛着や群馬の歴史や文化に対する誇りを醸成する。	文化振興課	①	上毛かるたの販売冊数	冊	19,000	8,276	43.56%	C	成果が認められる	6,593	・「上毛かるた」の発行・販売、「英語版上毛かるた」の販売、『上毛かるた』で見つける群馬のすがた(副読本)及び『上毛かるた』ゆかりの地文化めぐり(ガイドマップ)の販売を行った。【英語版:370部、副読本:395冊、ガイドマップ:611冊】また、上毛かるたの著作権利用申請について許諾を行った。 ・上毛かるた競技県大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため2年連続開催を中止した。 ・少子化が進む中、上毛かるた等の販売方法に工夫が必要である。	4	継続	かるた及び関連書籍の継続的な販売実績があり、本県のイメージアップやPRにも活用ができ、県民へのさらなる普及が期待できる。	C		
					②	上毛かるた副読本及びガイドマップ販売冊数	冊	設定なし	1,006	-	C	成果が認められる							昨年度の数値には届かなかったものの、一定数順調に販売している。	
					③	上毛かるた利用許諾件数	件	設定なし	97	-	C	成果が認められる							約100件以上の実績があり、順調に許諾している。	
(3)群馬の食文化の活用と発信/群馬の温泉文化の活用と発信																				
4	群馬の魅力発信		古くから受け継がれてきた湯治の歴史や祭りなど、温泉文化を魅力的な観光資源として活用するとともに、その価値を県内外へ発信する。	文化振興課	①	温泉文化に関するシンポジウム等の開催	回	1	1	100%	C	成果が認められる	1,495	温泉文化に対する価値や魅力を伝えるシンポジウムを開催。コロナ禍のため無観客として実施し、その内容を動画で配信。引き続き、日本固有の文化としての認知度を高めるため、より多くの県民に周知していく必要がある。	4	継続	関係者と協力して普及啓発を促進する必要があるため継続。	C		
					①	ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の登録数	社	設定なし	460	-	A	成果が大いに認められる							策定時目標の2倍に達しており、一定の賛同を得られているといえる。	
			すき焼きの食材を全て県産食材でまかなえるすき焼き自給率100%の県として、行政だけでなく、県民と一緒にすき焼きを通じた県産農畜産物のPRすることにより、「ぐんまのすき焼き」の定着による県産農畜産物の魅力の理解を図る。	ぐんまブランド推進課	①	ぐんま・すき焼きアクション賛同企業・団体の登録数	社	設定なし	460	-	A	成果が大いに認められる	0	5 継続 (見直しあり)	事業に賛同する企業・団体数は目標を大きく上回り、県民への認知が進むなど取組の成果が認められる。今後とも、学校給食での提供などを通じ、すき焼きを含む県産農畜産物の魅力発信に引き続き取り組む。					

プロジェクト	項目	事業	事業の目標	所属	成果(結果)を示す目標・指標					2021 決算額 (千円)	2021事業結果	担当課 来年度事業評価	部会 評価	意見						
					項目	単位	2021 目標 (A)	2021 実績 (B)	目標 達成度 (B/A)						担当課評価	担当課 評価理由				
02 東国文化の魅力発信																				
(1)東国文化の魅力発信																				
	5	東国文化周知事業	東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳大国である本県が誇る歴史文化遺産についての周知を進め、再認識を促すとともに、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	歴史文化遺産室	①	中学校の歴史的分野の授業において、東国文化副読本を活用した学校の割合	%	100.0	41	41.00%	D	成果があまり認められない	冊子配布からデジタル版へ移行したため、現場での活用方法など周知が足りなかった。	4,336	はにわ図鑑「しらべるHANI-図鑑」の公開、古墳や埴輪の魅力伝える動画の配信、中学1年生向けの「デジタル版東国文化副読本」の配布、「HANI-本」の取寄、観光部局と連携した歴史文化遺産ツアー造成等を行った。また「群馬県立歴史博物館イノベーション文化観光拠点計画」に基づき、県立歴史博物館を拠点に「埴輪」と「榛名山噴火関連遺跡」を文化観光コンテンツとして活用、デジタル埴輪展示室の整備やVRやARなどのデジタル技術を活用した充実した展示や展示解説の多言語化などを進めた。	4	継続	これまでの取組により副読本の活用は進んでいたが、冊子配布からデジタル版へ移行したため活用率が低下してしまっ。学校現場でのDX化は取組が開始されたばかりであり、引き続き、デジタル版の授業での活用を学校に働きかけ、中学校での学習支援につなげる必要がある。	D	・既存のコンテンツをデジタルに移行していく過渡期にあり、移行後の取組(周知等)を検討する段階にきている。 ・古墳大国や埴輪は子どもから高齢者まで分かりやすく、県内外に発信していく好材料。 東国文化や上野三碑など、大切だが難しい物については、どのようにアピールするかが課題。教育的な工夫がもう少し必要かもしれない。
(2)世界の記憶「上野三碑」の魅力発信																				
	6	「世界の記憶」上野三碑周知事業	ユネスコ「世界の記憶」に登録された上野三碑の価値や魅力の周知を進め、観光振興やイメージアップ等での活用を図る。	歴史文化遺産室	①	上野三碑のユネスコ「世界の記憶」登録	-	-	-	-	-	-	平成29年10月に登録済み	500	「上野三碑普及推進会議」(事務局:高崎市)を設置し、上野三碑の価値や魅力を広く県民に知ってもらうため、講演会の開催や三碑の特別公開の実施などの周知活動を実施した。	4	継続	上野三碑は、東国文化を構成する歴史文化遺産の一つであり、高崎市や地元の関係団体との連携を通して、他の文化資源とともにその価値や魅力を広く発信していく必要がある。	C	・教育的な取組は、アウトカムがすぐに出て来ないが、理念を持って進める必要がある。息長く取り組む姿勢は評価できる。 ・長期間にわたって学校で教えることが、いずれ大きな成果を生む。事業を効果的に進めるにあたり、必要なリソースを確保してほしい。
(3)「龍ぶ毛の国」群馬の魅力発信																				
	7	史跡上野国分寺跡整備	本県を代表する史跡である上野国分寺跡について、発掘調査のデータを元に、わかりやすい整備を行い、歴史的価値を磨き上げ、全国に情報発信してその価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興にもつなげる。	文化財保護課	①	発掘調査現地説明会や講演会の実施	-	-	-	-	B	成果がかなり認められる	調査成果を踏まえた展示パネル改修、子供向けパンフレット作成、紹介動画公開を行って歴史的価値を伝えた。	(9,300)	・H30・31年度に実施した追加発掘調査の成果を踏まえた展示パネル、パンフレット、動画により歴史的価値の普及啓発に努めた。	5	継続 (見直しあり)	上野国分寺跡保護管理運営と合わせて、最新の発掘調査成果を活かしたガイダンス施設の展示内容の更新(展示遺物の見直し)等による情報発信を行っていく。	C	・価値観が多様化し、昔のように国民全員が知っているということは、ほぼない。色々な価値観があり、それが細分化している。 ・埴輪や古墳をやっている人の中では、群馬は断トツのブランドであり、注目を集めている。
	8	文化財保存事業費補助特別枠	全国に誇りうる国指定文化財の歴史的価値を磨き上げ、その価値と魅力を情報発信し、群馬のイメージアップを図るとともに、地域作り、観光振興にもつなげていく。	文化財保護課	①	補助事業件数	件	16	14	87.50%	C	成果が認められる	予算状況が厳しい中、適切に補助事業を実施できた。	29,215	国指定文化財補助:14件 文化財の保存・活用について文化庁・市町村・所有者と連携できた。	2	縮小・一部廃止・統合	予算を効率的に執行するため「文化財保存事業費補助」と統合する。	C	・DX化について、文化の本質を深めるために、多様な先端技術を使って、理解が深まるという流れに持っていくべき。
	9	古墳・金井東裏遺跡情報発信事業	学校教育への働きかけや、展示会や冊子等で古代東国の文化的中心であった群馬の歴史や文化の価値を再認識し、郷土に対する誇りの形成や、群馬県の知名度向上につなげる。	文化財保護課	①	冊子の累計販売数 a:群馬県古墳総覧 b:ぐんま古墳探訪	冊	a:1,360 b:3,600	a:1,370 b:3,693	a:100.74% b:102.30%	C	成果が認められる	順調に売れている。	321	・発行後数年を経過したものの、『群馬県古墳総覧』『ぐんま古墳探訪』の販売部数を伸ばしている。 ・授業に古墳学習を取り入れられるよう、教員向けの埋蔵文化財専門講座を行った。 アプリにおいて、イベント開催等のプッシュ配信を14件行った。	2	縮小・一部廃止・統合	・アプリや冊子、発掘情報館での金井東裏遺跡出土品の展示等により、引き続き情報発信に取り組んでいく。	C	
	10	観音山古墳保護管理運営	史跡観音山古墳の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	文化財保護課	①	見学者数	人	15,000	9,283	61.89%	C	成果が認められる	石室見学再開以降、来場者が増加した。	6,445	・見学者や周辺住民の要望を受けて環境整備を行うとともに、県の電子申請システムにより駐車場の予約をできるようにした。 ・コロナによる影響が続く中で石室見学の方法を定め、中止していた石室の見学を再開して見学者の増加に努めた。 ・歴史博物館と連携して、見学者の増加を図っていく必要がある。 ・しっかり維持管理していくとともに、情報発信に力を入れていく。	4	継続	観音山古墳は開越道からのアクセスも良く、出土品が国宝指定されるなど古墳時代後期の群馬を代表する遺跡であり、県民の郷土への誇り醸成や地域振興のため、今後もしっかりと保存活用を図っていく必要がある。	C	
	11	上野国分寺跡保護管理運営	上野国分寺跡の歴史的価値を学校教育や生涯学習等を通して県民に認識してもらい、郷土に対する誇りや愛着の育成を図る。また、県外にも情報発信し、価値を広めるとともに、群馬のイメージアップを図り、地域作りや観光振興につなげる。	文化財保護課	①	見学者数	人	10,000	2,388	23.88%	C	成果が認められる	コロナ禍によるイベント中止により来場者数は減少したが、歴史講座の公開により情報発信を行った(tsulunos12,000回再生)。	9,300	・近年の史跡来館者はコロナ禍で大幅減少となっているが、解説動画やパンフレット、調査報告書をインターネット上で公開することで、活用事業を展開した。 ※2次調査成果を踏まえた展示パネルや子供向けパンフレットの作成、紹介動画の公開を通して情報発信(tsulunos 800回再生)。 ・郷土学習・生涯学習の場として継続的に情報発信し、環境整備や維持管理についても地元の協力をいただきながら、見学者数の増加に努める。	4	継続	国史跡の上野国分寺跡は本県を代表する古代の寺院遺跡であり、今後も確実に保存と活用を図ることで県民の郷土への誇り醸成や地域振興に資するため。	C	

プロジェクト	項目	事業	事業の目標	所属	成果(結果)を示す目標・指標					2021 決算額 (千円)	2021事業結果	担当課 来年度事業評価	部会 評価	意見		
					項目	単位	2021 目標 (A)	2021 実績 (B)	目標 達成度 (B/A)						担当課 評価	担当課 評価理由
03 世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用																
(1)世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」の保存と活用／日本遺産「かかあ天下〜ぐんまの絹物語〜」／ぐんま絹遺産の保存と活用																
	12	世界遺産・ぐんま絹遺産の継承	世界遺産やぐんま絹遺産の保存整備を進め、その価値を発信し、活用と継承への意識醸成を図る。	歴史文化遺産室	① 世界遺産構成資産を複数訪れたことのある県民の割合	%	設定なし	56	-	C	成果が認められる	144,157	4	継続	将来に確実に継承するため、継続。	C ・富岡製糸場は日本の近代国家を牽引した絹産業を象徴する魅力的な施設であるが、なぜ世界遺産なのか難しく分かりにくい。 ・世界遺産である理由の本質的な理解が浸透する取り組みを考えてほしい。また、富岡製糸場は知られているが、その他の構成資産の認知度が低い。 ・世界遺産のポイントは、放っておくと無くなってしまいが守るべき大切なものであること。着実に継承していくことが大切。維持のために予算を確保する必要がある。 ・今後の取組検討のためのアンケートでは、来場者ではなく、来ていない人達の意見を聞けるとよい。 ・周辺の温泉旅館等ホテルが、施設一遺産間のシャトルバスを出す等様々な工夫をしているが、客層が違いため、温泉に来た人達が遺産に興味を持つかという点、必ずしもそうでない。 ・マスマーケットに馴染まない施設なので、来場者をリピーターにする、特定関心層に訴える戦略も考えられる。
					② 世界遺産センターの来場者数	人	30,000	18,360	61.20%	C	成果が認められる				コロナ禍により、目標値には届かなかったが、昨年度の来場者数を上回った。	
	13	世界遺産・ぐんま絹遺産の普及啓発等	市町村、民間企業、民間団体と協働した世界遺産・ぐんま絹遺産の活用・発信により、全県に広がるぐんま絹遺産への関心を高め、地域活性化を図る。	歴史文化遺産室	① ぐんま絹遺産の認知度	%	83	集計なし	-	C	成果が認められる	12,224	4	継続	関係者と協力して普及啓発を促進する必要があるため継続。	
04 県民芸術祭の充実と展開																
(1)次代を担う人材の発掘・育成／メディア芸術の充実と展開／県民芸術祭の充実と展開																
	14	県民芸術祭の開催	優れた文化芸術鑑賞の機会を提供するとともに、県民参加による文化芸術の制作事業等を通して、本県文化の担い手育成や子どもたちの豊かな心を育み、併せて個性豊かな新しい県民文化の育成・創造を目指す。	文化振興課	① 県民芸術祭及び市町村等主催の各種文化行事への参加者	人	440,000	27,086	6.16%	C	成果が認められる	35,051	5	継続 (見直しあり)	令和2年度に引き続きコロナ禍ではあったが、事業団が文化団体にコロナ対策関連の消耗品を貸し出したり、事業時のコロナ対策の仕方を共有し、コロナ禍での活動実施を支援した。その結果、事業実施数は前年比約1.7倍、参加者数は前年比1.8倍となり、文化芸術団体は、コロナ禍からの立ち直りの兆しを見せていると考えられる。	C ・コロナの問題だけでなくDX化は進む。配信でも十分に意義を見いだせる。また、感性を育てるための方法を考える必要がある。今後もデジタル化への対応について検討してほしい。 ・Web配信と対面では雰囲気の違いが全く違う。制約された条件下で、イベントを作り出すテクニックやノウハウを構築していけると良い。 ・ネット配信に慣れていない文化団体に対し、ネット配信での見せ方の工夫・テクニックについて、レクチャーできる仕組みがあると良い。 ・リアルな代替物としての動画配信としても、実施するなら見てもらえるような仕掛けや工夫を考えなくてはならない。
					② 県民芸術祭参加者数	人	212,000	69,290	32.68%	C	成果が認められる				コロナ禍で目標には届かないが、前年比は1.8倍となった。	

プロジェクト	項目	事業	事業の目標	所属	成果(結果)を示す目標・指標					2021 決算額 (千円)	2021事業結果	担当課 来年度事業評価	部会 評価	意見			
					項目	単位	2021 目標 (A)	2021 実績 (B)	目標 達成度 (B/A)						担当課評価	担当課 評価理由	
05 県立文化施設等の発信力強化																	
(1) 県立美術館・博物館																	
15	近代美術館	所蔵している本県ゆかりの作家たちの作品、国内外の近・現代美術、日本画などのコレクション展示や、優れた美術の鑑賞機会を提供する企画展、若い作家のための公募展の開催、作品解説・講演会、子供向けワークショップをはじめとした教育普及事業など、様々な活動により、県の美術振興を推進する。	文化振興課	①	入館者数	人	100,000	34,062	34.06%	B	成果がかなり認められる	193,396	4	継続	美術に関する県民の知識及び教養の向上、県民文化の振興につながる。	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数が減少した状況は各館とも同じだが、各館の担当者評価に差が出ており、評価基準があいまいに思える。 ・文化の評価軸を複数検討してほしい(①来館者数②企画展内容(後世に残るものかどうか)など) ・各館に共通のストーリーで企画展を実施し、回遊することで内容を理解できるようにした面白い。 ・Z世代に対する対応として、デジタルに慣れた世代だからこそ、実際に行ってみると、リアルな魅力に気づいてもらえるような機会が提供できたらよい。 ・文学館のスマホ音声ガイドの導入は大変喜ばしい。一方で、作品を前にリアルタイムで学芸員の解説を聞ける機会の確保も工夫しながら継続してほしい。 ・イベントについて、感染防止対策による人数制限により、定員が少なくなったものはオンラインでも実施してほしい。 ・また、ターゲット層について、子どもや年配向けの企画はあるが、10～20代向けの企画が少ないように感じる。様々な芸術文化につながるようなワークショップ(例:アートの概念を説明するような内容等)があると参加しやすいと思う。 	
				②	教育普及事業参加者数	人	12,000	2,411	20.09%	B	成果がかなり認められる						後半が臨時休館となった「デミタスカップの愉しみ」展の会期延長、10校への出張授業、講演会や解説会、夏のイベント「こども+おとな+夏の美術館」におけるワークショップなど感染防止対策を講じて実施した。 ・フェイスブック、ツイッター、ホームページ、美術館ニュース等、多くの媒体を活用し長期休館期間後の来館を促すよう取り組んでいる。
				③	来館者満足度	%	90	96	106.67%	B	成果がかなり認められる						臨時休館やイベントの中止、後半の工事休館に加え、基本的感染対策として参加者数を制限したこと等により、参加者数は目標に及ばなかった。
16	館林美術館	東毛地域において、より多くの県民に美術作品鑑賞の機会を提供し、美術振興をより一層推進する。	文化振興課	①	入館者数	人	55,000	40,439	73.53%	A	成果が大いに認められる	171,685	4	継続	美術に関する県民の知識及び教養の向上、県民文化の振興につながる。	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスが大きな課題になっている。公演会場でもアクセスの良さで来場者数の差が顕著に出る。 ・単純に料金を下げても、興味を持つ理由(作品、場所等)がないと来てくれない。民間のイベントで、大人が学生を援助するチケットを導入していたところもあった。若年層が関わるきっかけとして、様々な制度を検討していく余地がある。 	
				②	参加者数 (「上記①」の内数)	人	6,000	3,860	64.33%	A	成果が大いに認められる						当館が中心となって実現させた巡回展が話題を呼び、工夫を凝らした自主企画により地元との連携も強化した。当館のコレクションを内外にアピールすることができた。
				③	入館者満足度	%	80.0	99	123.75%	B	成果がかなり認められる						市や地元住民を巻き込んだワークショップで展覧会担当と教育普及係が連携して事業を実施、新収蔵作品を活用した学校用教材に関しても連携し、訪問授業などを実現させた。
17	歴史博物館	群馬県地域の歴史の変遷と発展に関する資料を収集し、保管し、展示して、県民の利用に供し、その教養・調査研究に資するために必要な事業を行い、もって、教育・学術及び文化の発展に寄与する。	文化振興課	①	入館者数	人	100,000	73,943	73.94%	A	成果が大いに認められる	175,771	5	継続 (見直しあり)	企画展示室を活用した展示会をシーズンごとに実施することを継続するとともに、拠点計画によってデジタル化を進めている常設展示の魅力強化を行う。このことにより、質の高い魅力的な展示会を開催し、目標達成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・単純に料金を下げても、興味を持つ理由(作品、場所等)がないと来てくれない。民間のイベントで、大人が学生を援助するチケットを導入していたところもあった。若年層が関わるきっかけとして、様々な制度を検討していく余地がある。 ・来館者側も作品に能動的に関われるような工夫があるとよい。視覚だけでなく五感に訴えるものがあると、印象も残りやすくなりピーター増につながる。(例:企画展に運動した食品等をミュージアムショップ等で販売する) ・常設展は内容が変わらないため、見に行かなくなってしまう場合があるが、具体的なリニューアル内容や来館者への工夫がPRされれば、再び興味をもつ方がいると思う。 	
				②	教育普及事業参加者数	人	30,000	30,160	100.53%	B	成果がかなり認められる						4回の企画展・特別展での観覧料収入額が、前年度比125%増を実現した。
				③	来館者満足度	%	95	99	104.21%	A	成果が大いに認められる						企画展に関連したイベントやワークショップが家族連れに好評だった。
18	自然史博物館	来館者が参加体験をお楽しみながら自然を愛する心を育て、人と自然との関わりを理解し自然に親しみきっかけとなる。	文化振興課	①	入館者数	人	250,000	129,301	51.72%	C	成果が認められる	288,492	3	拡充	新型コロナウイルス感染症後を見据えて、デジタル技術を活用し、実物を見ることの良さを伝え、来館者増につなげたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・歴博の所蔵品が国宝に指定されたことが、アイヌ展など優れた企画展の誘致につながったのではないかと。誇れる所蔵品を持つことは強みになる。 	
				②	教育普及事業参加者数	人	55,000	19,137	34.79%	C	成果が認められる						新型コロナウイルス感染症による臨時休館や事前予約制により、2019年度と比べ来館者は大幅に減少したが、2020年度よりは増加した。
				③	来館者満足度	%	95	99	104.21%	B	成果がかなり認められる						新型コロナウイルス感染症によるイベント中止で、参加者は減少したが、感染が落ち着いた時期に中止となったイベントの代替イベントを行うことで減少を抑えた。
19	土屋文明記念文学館	本県にゆかりのある文学者及び文学の魅力をもっと県内外に発信し、文学に親しんでいただけるよう、毎年4回の魅力ある企画展を開催するとともに、記念講演等、様々な関連イベントを実施している。	文化振興課	①	入館者数	人	35,000	15,409	44.03%	C	成果が認められる	62,895	4	継続	名譽県民である土屋文明の業績の顕彰、本県ゆかりの文学者等の研究を進め、デジタル技術により業績を分かりやすく伝えて入館者増及び教育普及事業の充実を目指すことで、文学に対する県民の理解を深めるため。	<ul style="list-style-type: none"> ・第111～114回企画展(年間4回)を開催。特に、宮沢賢治や太宰治といった著名な作家を工夫を凝らして展示し、高評価だった。 ・まん延防止等重点措置による閉館中の燻蒸実施により休館日数減の抑制、企画展会期の延長、企画展行事の延期等、新型コロナウイルス感染症の影響をできるだけ少くした。 ・常設展示室にスマホによる音声ガイドを導入。 ・今後も魅力的な展示の実施、動画やSNSによる情報発信を行う。 	
				②	教育普及事業参加者数	人	19,000	9,493	49.96%	C	成果が認められる						まん延防止等重点措置による閉館中の燻蒸実施により休館日数減の抑制、企画展会期の延長、企画展行事の延期等、新型コロナウイルス感染症の影響をできるだけ少くした。
				③	来館者満足度	%	95	97	102.11%	B	成果がかなり認められる						移動展入場者は前年比44%だが「歌人が学校に!」はリモート実施も行いコロナ前とほぼ同様の校数
																高い目標値を、維持・達成できたため	

プロジェクト	項目	事業	事業の目標	所属	成果(結果)を示す目標・指標					2021 決算額 (千円)	2021事業結果	担当課 来年度事業評価	部会 評価	意見			
					項目	単位	2021 目標 (A)	2021 実績 (B)	目標 達成度 (B/A)						担当課評価	担当課 評価理由	
		20 県民会館運営 ※指定管理評価制度の中で評価するため、 審議会で評価しない	群馬県民会館は、県民への優れた芸術を鑑賞する機会の提供と個性豊かな群馬の文化づくりをとおして、県民の創造的な文化活動を支援し、群馬県の文化の発展と明るく潤いと活力に満ちた県民生活の実現に寄与するために設置している。	文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
06 文化を活かした地域づくり																	
(1)伝統文化を活かした地域づくり																	
		21 伝統文化継承事業	各地域固有の伝統文化(民謡・民舞、神楽、歌舞伎、人形芝居、祭り、囃子その他の伝統芸能及び地域の年中行事等)の適切な保存、継承及び発展を図り、伝統文化を通じて住民同士が交流を深めることで、地域の活性化につなげる。	文化振興課	① 「群馬のふるさと伝統文化」支援事業補助金の採択件数	件	40	24	60.00%	C	成果が認められる	前年を上回る採択件数であり、幅広い団体からの需要があると言える。	3,537	4 継続	今後も、伝統文化の継承状況を調査しつつ、伝統文化の継承活動を行う団体を支援することにより、県内における地域の伝統文化の継承を守っていく必要がある。	C	・地域の伝統文化は県民に身近で、取り組みやすい。 ・高齢者だけでなく、各世代の人が集う環境を積極的に作れば、人口減少社会と高齢化の問題の核になり得る。 ・伝統芸能は、高齢化や農村部での実施等、色々な要素が人材不足に拍車をかけている。
					② 県内伝統文化の継承件数	件	620	571	92.10%	C	成果が認められる	2023年度調査にて現状を把握する必要がある。					
(2)「群馬の文化」を活かした地域づくり																	
		22 文化づくり支援事業	多様な創造活動への支援を通じて、文化を活かした個性豊かで活力ある地域づくり、文化力の向上、次世代を担う子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実、地域の文化資産を活かした観光・地域振興	文化振興課	① 「群馬の文化」支援事業補助金採択件数	件	20	6	30.00%	C	成果が認められる	目標値には届かないが、意欲的に活動する団体に対して支援できた。	1,750	4 継続	コロナ禍であっても、意欲的に活動しようとする団体を支援する必要がある。感染状況に応じて、採択団体と相談し、当初計画から内容を変更するなど、事業実施に向けて支援を行った。	C	
					② 「群馬の文化」支援事業補助金交付額	千円	設定なし	1,750	-			・1次募集18件、2次募集4件の応募があり、評価委員会の審査を経て9件(文化力向上事業6件、次世代育成事業2件、文化資産発掘活用事業1件)を採択した。 採択団体において、コロナの感染状況悪化等により、実施中止となる事例が発生したため、実際の事業実施件数は6件となった。					
07 文化活動における多様な参画の促進																	
(1)障害のある人の参画の促進／高齢者の参画の促進／外国人の参画の促進																	
		24 障害者週間記念行事／ 精神障害者社会参加推進事業	障害のある人が文化活動を通じてそれぞれの個性を発揮し、社会への参加や自己実現につなげていける環境づくり	障害政策課	① 「障害者作品展」への出品数	点	320	187	58.44%	C	成果が認められる	障害のある人に対する理解と認識を深める契機となっている。	450	4 継続	障害のある人に対する理解と認識を深める場、交流の場を継続的に設ける必要がある。	C	□障害のある人の参画の促進について ・障害者の作品としてではなく、アート作品として、コンセプトを持って作品を発表する方が増えている。障害者を区分するのではなく、どのような支援が必要かを考え、個性を尊重することが大切である。常に問題提起されながら、解決策が見つからない問題であるが、担当部局は、そのような問題への理解をさりげなくアピールできるとスマートである。 ・国では、厚生労働省と文化庁が連携して障害者芸術の事業をしている。県でも部局を超えて提案できるとおもしろい。
		25 高齢者の文化活動の充実	ぐんまときめきフェスティバルや群馬県老人クラブ大会といった文化活動等の発表の場を設けることにより、高齢者の生きがいと健康づくりを推進する。	介護高齢課	① ときめきフェスティバル来場者数	人	設定なし	1,139	-	C	成果が認められる	多数の作品の応募があった。					
		26 外国人の参画の促進	外国人住民の自立と社会参画を進めるための環境を整備する	ぐんま暮らし・外国人活躍推進課	① 医療通訳ボランティア養成件数	件	15	7	46.67%	C	成果が認められる	養成件数は目標値に届かないものの、ボランティアを養成できた。	20,870	4 継続	多文化共生を推進するため継続。	C	□外国人の参画の促進について ・文化の評価としては異文化理解や国際交流などの側面を見ていくべきではないか。
					② 相談件数	件	設定なし	1,915	-	A	成果が大いに認められる	相談件数は前年度を大きく上回った。					
					③ 災害時多言語支援センター設置運営訓練	件	50	37	74.00%	C	成果が認められる	参加者は目標値に達しなかったものの、災害時に備えた訓練ができた。					